



埼玉・群馬の健康と医療を支える 未来医療人の育成 Newsletter

第6号

発行 埼玉医科大学／群馬大学 Saitama Medical University / GUNMA UNIVERSITY

本プロジェクトで大切にしていること vol.6

群馬大学大学院医学系研究科 研究科長 事業推進プロジェクトサブリーダー 調 憲

■ 地域社会の医療ニーズに応える人材を育成します

現在、全国的に医師不足が深刻な問題として挙げられており、特に地方や県境地域においては、医療需要に見合った供給体制が十分に整備されていない現状があります。群馬県と埼玉県の間境地域も例外ではなく、患者の流出が医療提供体制の持続可能性に影響を及ぼす大きな課題となっています。このような背景を受け、埼玉医科大学と群馬大学が大学という枠組みを超えて連携し、両県の医療現場に対応できる医療人材の育成に取り組んでいます。本事業は、文部科学省の支援を受け、多くの関係機関の協力のもと進められており、地域社会の医療ニーズに応える人材を養成することに大きく貢献するものです。



昨今、国立大学医学部の地域医療を支える人材の供給という役割は、ますます重みを増しています。医師不足の深刻化に加え、診療科や地域に関する医師の偏在問題が懸念される中、医学教育は一般的な知識や技術の伝達にとどまらず、地域社会が抱える具体的な課題を理解し、将来この課題を解決しえる人材を育成することに向けた教育が求められています。この点において、本事業は、地域の医療現場で活動する医療者と触れ合い、それを通じた経験を積む機会を提供しています。その結果、学生が地域医療の課題に直接向き合い、地域医療で特に必要とされる実践的な知識と技術を身につけることを重視しています。令和4年度に開始された本事業も3年目を迎え、両大学の学生たちは、双方向型オンライン講義や県境地域の医療機関での実地研修を通じて、現場に深く関わる教育を受けています。

これからも地域医療を支える若手医師の需要は拡大すると見込まれており、特に自律的かつ主体的に課題解決に取り組む医師の育成が重要です。引き続き、本事業のさらなる発展と、地域に根ざした医療人材の育成にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年度開講のプログラム紹介（群馬大学）

プログラム4：はじめて学ぶ地域医療～かしこく健康にいきる～

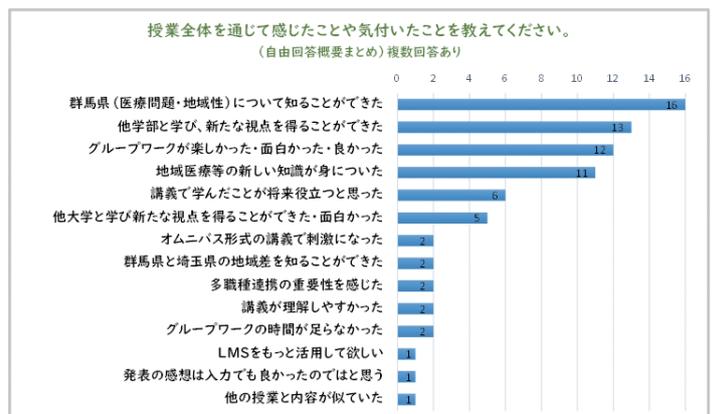
群馬大学大学院医学系研究科 総合医療学講座 総合医療学分野 教授 小和瀬 桂子

■ 「地域を知る」ために主体的に学ぶ

「はじめて学ぶ地域医療～かしこく健康にいきる～」は、地域医療志向を育むため、入学直後の時期に教養教育科目として開講しました。医学科生のみならず、保健学科生（看護学、検査技術科学、理学療法、作業療法）、共同教育学部生、理工学部生、情報学部生を対象とし、令和5年度は66名（医学科11名）、令和6年度は120名（医学科37名）の1年生が履修しました。医師不足地域である群馬県と埼玉県の県境地域を題材とし、地域医療の現状について学修しました。すべて実務経験のある各専門分野で実際に地域医療を行っている教員がオムニバス形式の講義を行いました。特に、群馬県と埼玉県の地域医療で求められている総合診療、救急医療、感染症、周産期・小児医療、高齢者医療を中心に扱いました。また、在宅医療や地域保健、保健行政等を含めた地域連携についても学びました。

さらに、学生が両県について住民の視点に立ち「地域を知る」為に主体的な学びを促すグループワークと発表も行いました。群馬大学の学生は、群馬県の二次医療圏の特徴を調査し、コミュニティアズパートナーモデルを用いて、その地域の課題を抽出し、自ら解決策を考え、グループ内で討論を行いました。埼玉医科大学の学生も埼玉県の市町村について、上記と同様の調査検討を行い、両大学をオンラインで結び合同発表会を行いました。

授業終了後アンケートでは、「他学部生と一緒にワークを行う事で新しい視点を得られた」、「埼玉医科大学と合同発表会を行う事で、群馬県のみならず、埼玉県にもより興味関心を持つことができた」という意見が多くを占めました。



令和6年度履修者：120名 アンケート回答者数：111名



合同グループ発表の様子

プログラム5：県境地域から学ぶ地域医療集中演習（利根川プログラム）

群馬大学医学部附属病院 地域医療研究・教育センター 講師 羽鳥 麗子

■ 利根川でつながる地域医療～埼玉・群馬の県境地域に焦点を当てた合同授業の実践～

「利根川プログラム」の特徴は、埼玉医科大学医学部生と群馬大学医学部医学科生との共同学習にあります。2つの大学で同じ教育プログラムを通じて、地域や医療について学ぶ機会となっています。群馬大学医学部医学科では、全学年を履修対象とし、県境地域の関連医療機関での実習や両大学間の共同学習を通じて、住民の視点に立ち、地域が抱える医療的課題について学習しています。

令和5年度、「利根川プログラム」が正式開講し、地域医療の現場で活躍する医師から、病院の地理的状況や地域における役割、メディカルスタッフとの連携等について学ぶことができました。バスツアーでは、小鹿野中央病院、済生会加須病院、公立藤岡総合病院、公立館林厚生病院、公立富岡総合病院、秩父市民病院、埼玉県立循環器・呼吸器病センター、深谷赤十字病院、伊勢崎市民病院、太田記念病院の10の連携病院でご指導いただきました。

令和6年度、教育活動は両大学で本格化し、両大学合同のオンライン講義では、それぞれの地域の視点から意見交換を行いました。県境地域は患者の県外流出・流入が顕著な医師不足地域です。新たな実習病院として、東松山市立市民病院、小川赤十字病院、桐生厚生総合病院でご指導いただきました。履修者は昨年度のおよそ2倍に増え、両県の地域や医療情勢に興味や関心を持つことができたという意見が9割以上を占めました。本事業を通して、「地域を良く理解する」、「地域への愛着を持つ」、「課題の発見と解決に対する意欲を持つ」素養の育成に努めてまいります。



桐生厚生総合病院 臨床検査部にて



振り返りアンケート結果：回答数 24 名

(令和5年度、令和6年度「利根川プログラム」3回分の集計)

令和6年度 シンポジウムのお知らせ

令和6年度埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム

地域から地域へ!

つながる未来の医療人を育てる

2025

3/2

 13:30~16:00

会場 エテルナ高崎(JR高崎線東口徒歩3分)ハイブリッド開催 ※参加費無料

〒370-0841 群馬県高崎市栄町 22-30

対象者 中学生、高校生、受験生、大学生、地域医療に関心がある方

内容 第1部 特別講演「未来の医療人～地域医療を守るプライマリ・ヘルス・ケア医とは～」

講師：富山大学医学教育学講座 教授 高村 昭輝氏

第2部 プログラム紹介

埼玉医科大学・群馬大学参加学生及び教員によるプログラム振り返り



シンポジウムと同日開催 医学生とのふれあい相談会



埼玉医科大学・群馬大学の医学生が、中学生の皆さんのご質問にお答えします。受験勉強のこと、学生生活、将来の夢など、何でもご相談ください。医学生(1~2名)と中学生(2~3名)でお話しいただく予定です。

『埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム』では、医学部の教育や取組についての特別講演や、医学生による地域医療の発表など、医師を目指す皆さんに役立つ情報が満載です。是非ご一緒に参加をおすすめします!!



埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成 Newsletter 第6号

編集・発行：埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業事務局

住所：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

TEL：049-276-1109

発行日：2024年11月

E-mail：sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp

URL：https://sgmirai.jp

無断転載禁止

For Students

